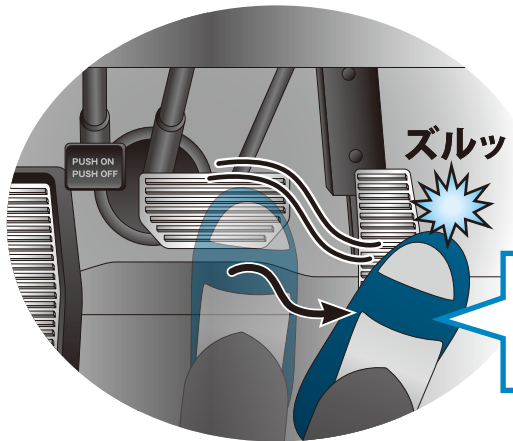
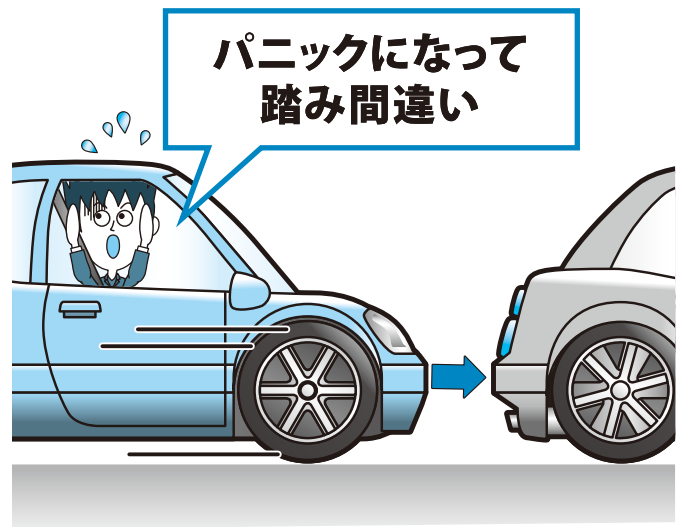
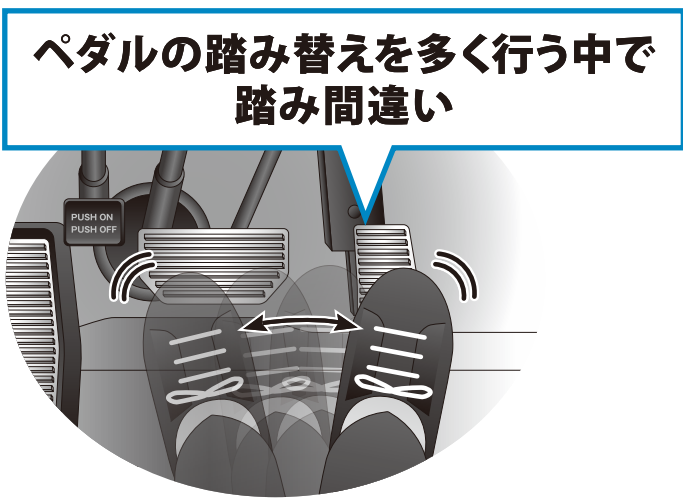


ITARDA INFORMATION

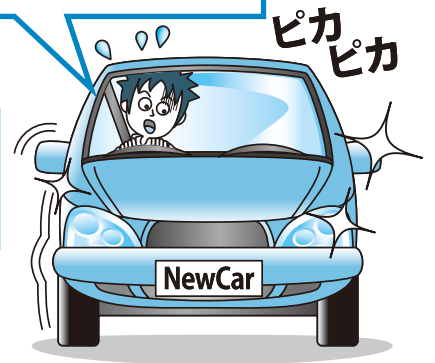
交通事故分析レポート No.137

特集 四輪車のペダル踏み間違い事故

～アクセルとブレーキの踏み間違いを事故事例から学ぶ～



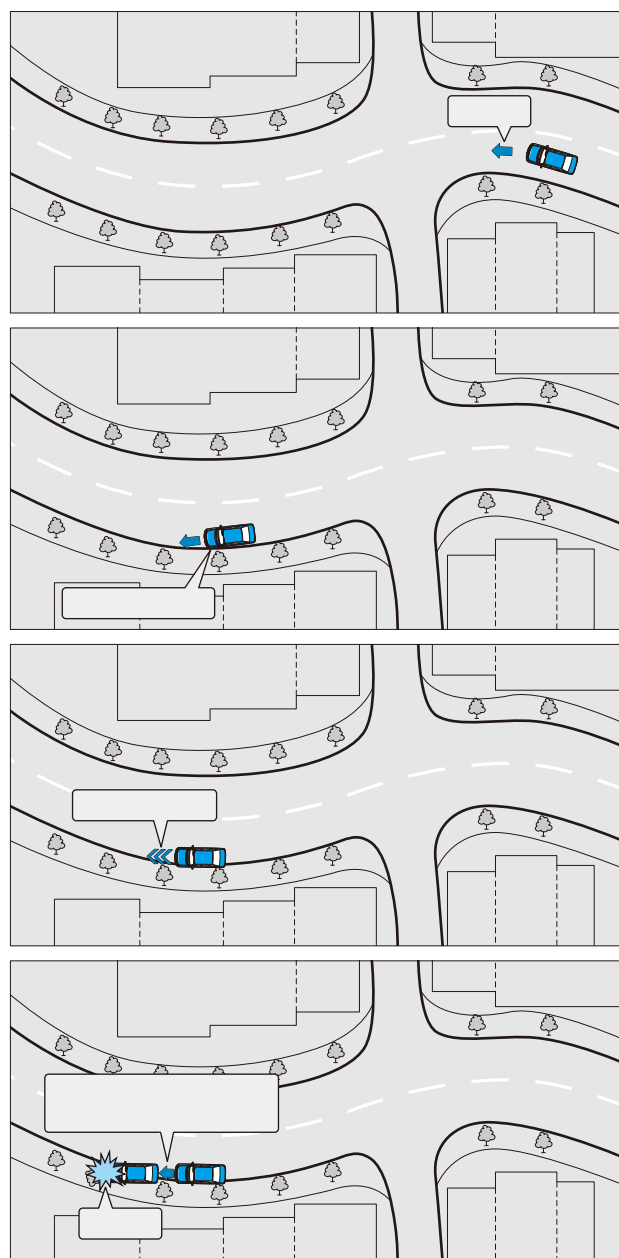
新車や代車等の乗り慣れない車で
踏み間違い



① はじめに	P2
② 今回紹介する事故事例について	P2
③ 事故事例から学ぶ	P2
④ まとめ	P8

◆事件事例5〔カーブ進行していた場面(図6)〕

運転者:Aさ



4 まとめ

アクセルとブレーキの踏み間違い事故の具体的事例をもとに、いくつか学ぶことができました。

踏み間違いは、駐車場で方向変換していた時や信号交差点手前の停止車両後方に進行していた時など踏み替えが多い場面で、ちょっとしたきっかけで起きていました。また、路外施設の出口や信号なし交差点において道路へ進入する際など、車両や歩行者に対して様々な注意を払うことが必要な場面でも、踏み間違い事故が起きています。さらに、乗り慣れない車や不適切な状態の履物の時も、踏み間違いが起こりやすいと考えられます。

そこで、踏み間違いが起きる可能性をできるだけ低く抑える手段の例として、次のようなことが有効と考えられます。

- 駐車場には様々な危険が潜んでいると考え、歩行者や自転車など周囲に気を配りながら低速で前進・後退する際には、ブレーキに足を軽く載せたままクリープ現象を利用する。
- 信号交差点に向けて進行している際の信号の変わり目では、ブレーキに足を載せてブレーキで速度を調整しながら惰性で進行する。
- 車を乗り換えたばかりで慣れないうちは、運転を始める前にアクセルとブレーキを実際に踏んでみて、それぞれのペダル位置を確認する。
- サンドルなどアクセルやブレーキを操作しにくい履物は控えるとともに、濡れて滑りやすくないかなど履物の状態を確認する。
- 軽微な衝突や危険な状態に陥って慌てたりパニックにならないように、思い込みをせずに危険を予測しながら運転することや、前方注視、一時停止などの安全運転を徹底する。

踏み間違いに対して運転者を支援する技術の普及も進んでいますが、全ての踏み間違い事故が防げるわけではありません。今回の事故事例から学んだことを活かし、アクセルとブレーキの踏み間違い事故を少しでも減らせるように努めましょう。

(谷口 正典)

参考文献

平川晃洋:「アクセルとブレーキペダルの踏み間違い事故 ～高齢ドライバーに特徴的な事故の防止に向けて～」
イタルダイネーションNo.124,ITARDA(2018)

イタルダイネーションに関するお問い合わせ先 渉外事業課 TEL 03-5577-3973 FAX 03-5577-3980

公益財団法人 交通事故総合分析センター

- ウェブサイト <https://www.itarda.or.jp/> ●Eメール koho@itarda.or.jp
- フェイスブック <https://www.facebook.com/itarda.or>

本部・東京交通事故調査事務所

〒101-0064 東京都千代田区神田猿樂町2-7-8 住友水道橋ビル8階
TEL 03-5577-3977(代表) FAX 03-5577-3980

つくば交通事故調査事務所

〒305-0831 茨城県つくば市西大橋641-1 (一財)日本自動車研究所内
TEL 029-855-9021 FAX 029-855-9131